

2019 年度第 1 回 認知症対応型通所介護幸寿苑 運営推進会議報告書

| | |
|-------------|---|
| 開催日時 | 2019 年 10 月 8 日 (火) 14:30～15:30 |
| 開催場所 | 特別養護老人ホーム幸寿苑 第一会議室 |
| 参加者 (9名) | ご利用者様の家族代表様 認知症知識を有する方 グループホームセンター長様 地域包括支援センター 管理者様 特別養護老人ホーム幸寿苑 施設長 特別養護老人ホーム幸寿苑 主任生活相談員 幸寿苑短期生活介護 主任生活相談員 幸寿苑居宅介護支援事業所 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 主任生活相談員 |
| 司会進行 | 主任生活相談員 |
| 議事録 | 管理者 |

1 当日の次

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 管理者あいさつ
- (3) 2019 年度利用者実績、上期事業報告
- (4) 事例（利用者間のコミュニケーション）から考える利用者対応について
- (5) 委員からの意見
- (6) その他
- (7) 閉会のあいさつ

2 会議の内容

1-(3) 資料に沿って、利用者の実績や事業報告を行いました。

委員から 「通所介護との合同の行事等を別にして何かメリットはあったのか」
相談員から「ゆっくりと過ごすことができている」

1-(4) 相談委員から 3 事例の発表がある。

どれも利用者間のトラブルで、職員の声かけやその時の対応について説明し
どのような対応があるのか意見をいただく。

委員から 「悪口を言われている利用者は、気にしている様子があるのか、さほど気にしていないようであれば、様子を見てトラブルになりそうであれば、

職員が間に入って行けばいいのではないか」

「職員の常識で利用者の言動や行動を見ていくことが正しい事なのか良く考えたほうがいいと思う。」

佐藤生活相談員から 「施設でも同じような事例があり、施設の職員にも今のようなお話が聞けると良いと感じた。」

施設長から 「事例に上がった利用者の生活歴などを理解し支援していくことも大切だと思う。」

「職員は、現場に入ると周りが見えなくなってしまう事が多々あるように感じる。このような話の研修ができればと感じた。」

阿部生活相談員から 「短期でも感じる事がある。短期の利用者は共同生活にストレスを感じているのだと思う。その方達の気持ちを尊重した対応を心掛けたいと思った。」

1-(5) 委員からの意見

委員から 「日々の相談の中で認知症の相談が多いと感じている。施設等の利用以外にも社会資源があると思うので、示していきたいと思う。」

委員から 「職員にとって利用者が座って穏やかに過ごされていることが理想と思いでいることがあると思う。事例のような現状も、元気があっていいなあと思ったほうがいいと思う。」

1-(6) その他

委員から 「現在介護現場で、働く人が少なくなっている。施設では今後人員確保など検討しているのか」

施設長から 「外国人の採用などもいろいろな取り組みを国、県側で行われているが、また難しい状況と把握している。現在施設では、介護職員の仕事分担をして、障害者や高齢者枠の採用を行っている。今後も検討しながら人員確保をしていきたいと思う。」

次回の運営推進会議は、2020年の2月下旬から3月上旬に開催予定